令和 4 年度

学校保健安全委員会

令和 5 年1月 26 日（木）13:00～

社会福祉法人青垣福祉会

認定こども園あおがき

令和４年度 学校保健安全委員会

目次

１ 学校保健安全委員会について

２ 委員会名簿

３ 本年度の学校保健安全目標

４ 保健

4-1 健康診断結果
4-2 保健調査票による園児の既往歴・現病歴
4-3 環境調査結果
4-4 医務室利用状況
4-5 受診に至った事故
4-6 感染症の状況
4-7 昨年度からの課題と今年度の実践
4-8 次年度へのの課題

５ 体育（体づくり）

5-1 昨年度の課題
5-2 今年度の主な取り組み
5-3 評価
5-4 次年度への課題

６ 給食

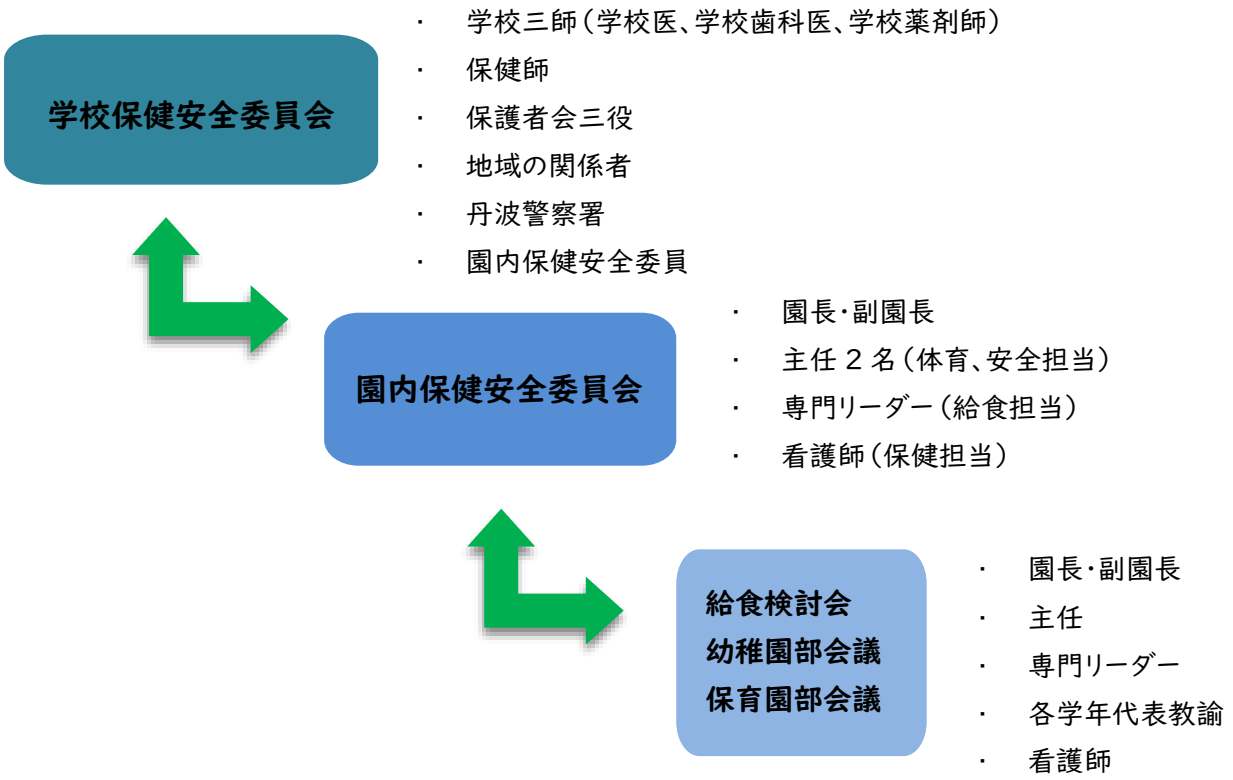
6-1 昨年度の課題
6-2 今年度の主な取り組み
6-3 職員に向けて
6-4 保護者に向けて
6-5 地域との連携
6-6 次年度への課題

７ 安全

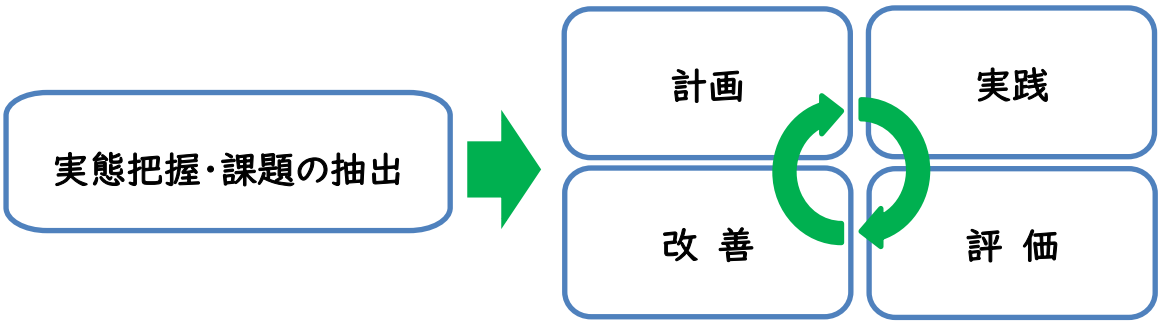
7-1 昨年度の課題
7-2 交通安全
7-3 災害安全
7-4 生活安全
7-5 次年度への課題

1　学校保健安全委員会について

1-1 学校保健安全委員会の構成組織



1-2 学校保健安全委員会の実践課程



子どもたちの実態を把握することによって課題を見いだし、それを踏まえて「活動計画」を立て、「実践」に移します。

実践の過程で評価を繰り返しつつ、問題点を改善しながら教育活動を継続していきます。子どもたちの生命や人権を守り、子どもたちが自分の健康について関心を持ち、より健康的な選択をしていく力を育てることを目指しています。

2　委員会名簿

<table>
<tr><th colspan="2">役職名</th><th>氏名</th><th colspan="2">こども園職員</th></tr>
<tr><td colspan="2">園医（整形外科）</td><td>平島 顕</td><td>理事長</td><td>足立 光藏</td></tr>
<tr><td colspan="2">園医（歯科）</td><td>足立 清之</td><td>園長</td><td>安田 千代</td></tr>
<tr><td colspan="2">園薬剤師</td><td>足立 義雄</td><td>副園長</td><td>竹安 里美</td></tr>
<tr><td colspan="2">丹波市保健師</td><td>足立 安希</td><td>安全担当</td><td>辻 京子</td></tr>
<tr><td colspan="2">民生委員
主任児童委員</td><td>足立 尚子</td><td>体育担当</td><td>竹村 綾子</td></tr>
<tr><td colspan="2">佐治駐在所</td><td>野田 直弥</td><td>給食担当</td><td>赤對 ゆかり</td></tr>
<tr><td rowspan="3">保護者会</td><td>会長</td><td>田中 誠真</td><td>保健担当</td><td>近藤 真奈</td></tr>
<tr><td>副会長</td><td>足立 英介</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>会計</td><td>西田 裕一</td><td></td><td></td></tr>
</table>

3　本年度の学校保健安全目標

◎　**保健**

手洗い、咳エチケットを身につけよう

◎　**体育**

様々な遊びで体を動かそう

◎　**給食**

五感を働かせて食事を楽しむ経験をしよう

◎　**安全**

災害や事故から身を守る方法について学ぼう

4　保健

年間目標：手洗い、咳エチケットを身につけよう

4-1 健康診断結果

実施時期：視力検査、歯科検診は 6 月、内科・運動器検診は 10 月、栄養状態は 11 月のデータを使用。

					あおがき	全国（※エ）
栄養状態（※ア）	5 歳児		やせ傾向		0 名	0.5%
			肥満傾向		8.5%(※イ)	3.7%
視力	5 歳児		裸眼視力 1.0 未満の者		26.1%	27.9%
色覚	4・5 歳児希望者		色覚異常疑い		0 名	―
口腔	5 歳児	う歯・その他の異常（※ウ）	う歯のない者		56.5%	69.7%
			う歯のある者の内	処置完了者	39.1%	
				処置未完了者	4.4%	
			歯列・咬合		1	
			顎関節		0	
			歯垢の状態		0	
			歯肉の状態		0	
			その他の疾病及び異常		0	
心臓	4・5 歳児		心拍異常		2	
運動器			運動器異常		0	
骨格			脊柱異常		0	
			胸郭異常		0	
尿			蛋　白		0	
			潜　血		0	
			糖		0	

※ア
やせ傾向：
肥満度-15%以下

肥満傾向：
肥満度 15%以上

※イ
5 歳児 47 名中 4 名

※ウ
う歯のあるものは 46 名中 20 名

※エ
令和 3 年度学校保健統計より記載

4-2 保健調査票による園児の既往歴・現病歴

疾患名	人数
食物アレルギー（除去を要する者）	6 名
喘息	12 名
アレルギー性鼻炎	17 名
アレルギー性皮膚炎	14 名
薬剤アレルギー	1 名
アレルギー性結膜炎	2 名
心疾患及び異常	3 名
熱性けいれん	10 名
低身長（-2.0SD 以上）	（※キ）7 名

※キ
11 月の身体測定結果より

4-3 環境調査結果

（1） 夏季保健指導（7 月 28 日実施）

検査項目	検査場所	測定値	基準値	コメント・評価
残留塩素濃度	調乳室水道水	0.2mg/L	0.1～0.4mg/L	基準内 味異常なし、臭気なし、 濁りなし、異物なし
	調理室水道水	0.2mg/L		
	プール水	1.0mg/L	0.4～1.0mg/L	基準内 濁りなし、シャワー・洗浄良好、 プールサイド状況良好
温度	ほし組 園児不在	24.4℃	10～30℃	コロナ感染症が増加しています。対応のため、廊下側と外側を対角で換気を継続してください。 晴天時、部屋の気温が上がらないように、また、日差しが入らないようにカーテンを閉めて対処してください。
湿度		75%	30～80%	

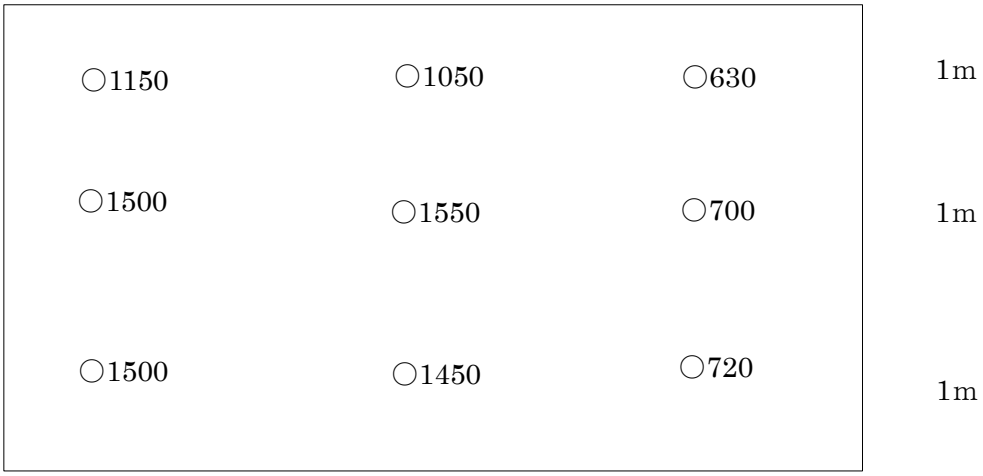
指導事項：プール水は朝すぐに測定し、記録し薬剤量を調整して入れてください。
プールの残留塩素は、条件により変化しやすいので、こまめにチェックしてください。
プール水は全日残留塩素濃度が 0.4mg/Lを下回らないようにシステムの管理をお願いします。
今回の検査でプール水の残留塩素は規定を満たしていました。

（2） 冬季保健指導（12 月 8 日実施）

<table>
<tr><th>検査項目</th><th>検査場所</th><th>測定値</th><th>基準値</th><th>コメント･評価</th></tr>
<tr><td rowspan="2">残留塩素濃度</td><td>調 乳 室
水道水</td><td>0.4ml/L</td><td rowspan="2">0.1～0.4mg/L</td><td>基準内
臭いなし、濁りなし、
無色透明</td></tr>
<tr><td>調 理 室
水道水</td><td>0.4ml/L</td><td>基準内
臭いなし、濁りなし、
無色透明</td></tr>
<tr><td>照度</td><td rowspan="4">ほし組
（園児
不在）</td><td>室内の 9 か所で測定。結果は下記の通り。</td><td>机等 300Lx 以上
黒板 500Lx以上
直射光は 3000Lx以上あり不適</td><td rowspan="4">・教室はコロナ対策として対角線で換気を維持してください。CO_2測定器が設置されていますので基準に従い適正に管理してください。
換気しているため、湿度が低めになるので、エアコンで温度を上げ、湿度は 50～60%を保つようにしてください。晴天時や曇り、雨天時で環境が変わりますので、適宜適正な状況になるよう管理してください。</td></tr>
<tr><td>二酸化炭素濃度</td><td>0.03%</td><td>0.15%以下</td></tr>
<tr><td>温度</td><td>13.1℃</td><td>10～30℃</td></tr>
<tr><td>湿度</td><td>46.8%</td><td>30～80%</td></tr>
</table>

ほし教室

窓側　　廊下側



照明電源（入）、カーテン（なし）、天候（晴天）

（3） 保育室環境について実態調査（12 月 15 日 11 時 30 分頃）

1） 二酸化炭素濃度

（学校保健法が定める二酸化炭素濃度の保育室の基準値は 1500ppm。
ただし、新型コロナ感染症の感染予防策として求められる換気の目安は 1000ppm 以下。）

2）室温と湿度

調査当日の天気：曇、外気温：7℃、湿度 43%

（学校保健法の基準は、室温 10～30℃、湿度は 30～80%。ただし、インフルエンザ予防の観点から、湿度は 50～60%以上が望ましい。）

保育室	二酸化炭素濃度（ppm）	室温（℃）	湿度（%）
0 歳児	444	15.8	38.2
1 歳児	497	9.7	41.2
2 歳児	580	13.5	38.5
3 歳児	578	11.7	43.8
4 歳児	730	11.6	44.8
5 歳児	573	16.6	34.4

4-4　医務室利用状況（4 月～10 月）

医務室利用状況：症状別（4 月～10 月 31 日）

内科的なもの		外科的なもの※2	
内訳	件数（人）	内訳	件数（人）
服薬	101	擦り傷	15
発熱	133	口・歯のけが	6
嘔吐	54	打撲	22
腹痛・下痢・便秘	51	痒み	8
咳	6	目のけが・病気	7
誤食 ※1	1	発疹	11
その他	7	噛み傷	24
		鼻血	4
		とげ	2
		捻挫	1
		その他	3
小計	353	小計	103

4-5 受診に至った事故（4 月 1 日～11 月 30 日 3 件）

日時	年齢性別	場所	内容	対応
令和 4 年 4 月 8 日 11 時 30 分頃	4 歳男児	園庭	遊んでいるときに突然嘔吐。その後の経過観察中に顔面蒼白となり、一時的に意識がもうろうとなった。直ぐに 119 番通報したが、救急車を待つ間に意識は戻った。丹波医療センターで診察を受け、原因不明のため経過観察となった。	救急搬送
令和 4 年 9 月 22 日 10 時 40 分頃	1 歳女児	保育室	他園児に左眼瞼を咬まれた。	眼科受診
令和 4 年 11 月 24 日 14 時 45 分頃	5 歳男児	保育室	保育室内でその場で回転していてふらついて転倒。左肘を打撲。	整形外科受診

4-6 感染症の状況

（1） 感染症の状況　(4 月～11 月)

感染症	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	職員	全体
RS ウイルス	0	1	1	1	0	1	0	4
突発性発疹	3	3	1	0	0	1	0	8
ヒトメタニューモウイルス感染症	0	1	0	1	1	0	0	3
感染性胃腸炎	4	9	5	5	8	9	0	50
手足口病	1	2	0	0	0	0	0	3
アデノウイルス感染症	0	1	0	0	0	0	0	1
みずぼうそう	1	0	0	0	1	2	0	4
おたふくかぜ	0	0	0	0	1	0	0	1
＊新型コロナウイルス感染症	2	6	3	6	12	12	8	49

＊新型コロナウイルス感染症は、陽性者（みなし陽性も含む）の合計

4-7 昨年度からの課題と今年度の実践

（1） プールの水質管理について

1） 昨年からの課題：プールの水質管理を安定的に実施できる設備、体制を整える必要がある。

2） 今年度の取り組み：

次亜塩素酸ナトリウムの持続注入器の設置を行ったことにより、プール使用期間中、24 時間水質を保持する体制に近づけた。今年度の夏季環境調査では、残留塩素濃度の基準値を満たしていた。

（2） 手洗い指導について

1） 昨年からの課題：基本的衛生習慣を正しく実施できるよう理解を深め、実践につなげる必要がある。

2） 今年度の取り組み：

① 手指消毒用アルコールを職員管理に変更

② 手洗い指導の実施（4･5 歳児と 5 歳児保護者）

③ 手洗い歌の利用

④ 新しい手洗いソープの導入

4-8 次年度への課題

（1） 保育室の湿度を適正値に保つ方法を検討する必要がある。

（2） 基本的な衛生習慣を身に付けることができるよう継続的に働きかけていくことが必要である。

5 体育

年間目標：様々な遊びで体を動かそう

5−1 昨年度の課題

（1） 一日 1 時間以上体を動かして遊ぶことができない日が多かった。

（2） 子どもロコモチェックの結果から、子どもロコモの疑いのある子どもが 40%あり、特に体の柔軟性が低下している子どもが多いことが示唆された。

※子どもロコモについては別紙参照

5−2 今年度の主な取り組み

（1）運動遊び

0 歳児	1 歳児	2･3 歳児	4･5 歳児
裸足で園内 芝生を散歩 歌を用いたふれあい遊び 室内での運動遊び	園庭での自由遊び		
	ラジオ体操	ラジオ体操＋四股踏み	
	リズム運動		
	園外への散歩		
	―		子どもロコモチェックの実施

※リズム運動とは･･･「さくら･さくらんぼ保育園」の斎藤公子先生考案。ピアノのリズムに合わせて教師の動きをまねて体を動かし、楽しみながら運動機能を高める方法。姿勢･バランス･筋緊張･眼球運動･ボディイメージなどの感覚運動機能を発達させ、集中力や自己肯定感の基盤が身につくと考えられている。

（2）子どもロコモチェックの実施

令和 4 年 11 月に 4･5 歳児 67 名に実施（欠席者 7 名）。

	4 歳児	5 歳児	全体
正常	13 名	25 名	38 名
子どもロコモの疑いあり	15 名	14 名	29 名
子どもロコモ疑いの割合	46.4%	35.9%	43.3%

5−3 評価

（1） 園庭の整備が完了したことで、園庭での自由遊びに加え、各学年の身体能力に応じた運動あそびを実施できた。

（2） 4･5 歳児に実施した子どもロコモチェックの結果では子どもロコモの疑いのある子どもの割合は昨年と比べて改善していなかった。

5-4 次年度への課題

（1） 子どもたちが楽しく取り組める運動プログラムの実践により、子どもロコモを予防、改善していく必要がある。

6 給食

年間目標：五感を働かせて食事を楽しむ経験をしよう

6-1 昨年度の課題

（1） 誤嚥窒息事故の防止に向けて、より安全な給食メニューを作成していくとともに、子どもの発達に応じた食事の提供について職員の知識と技術を高めていく必要がある。

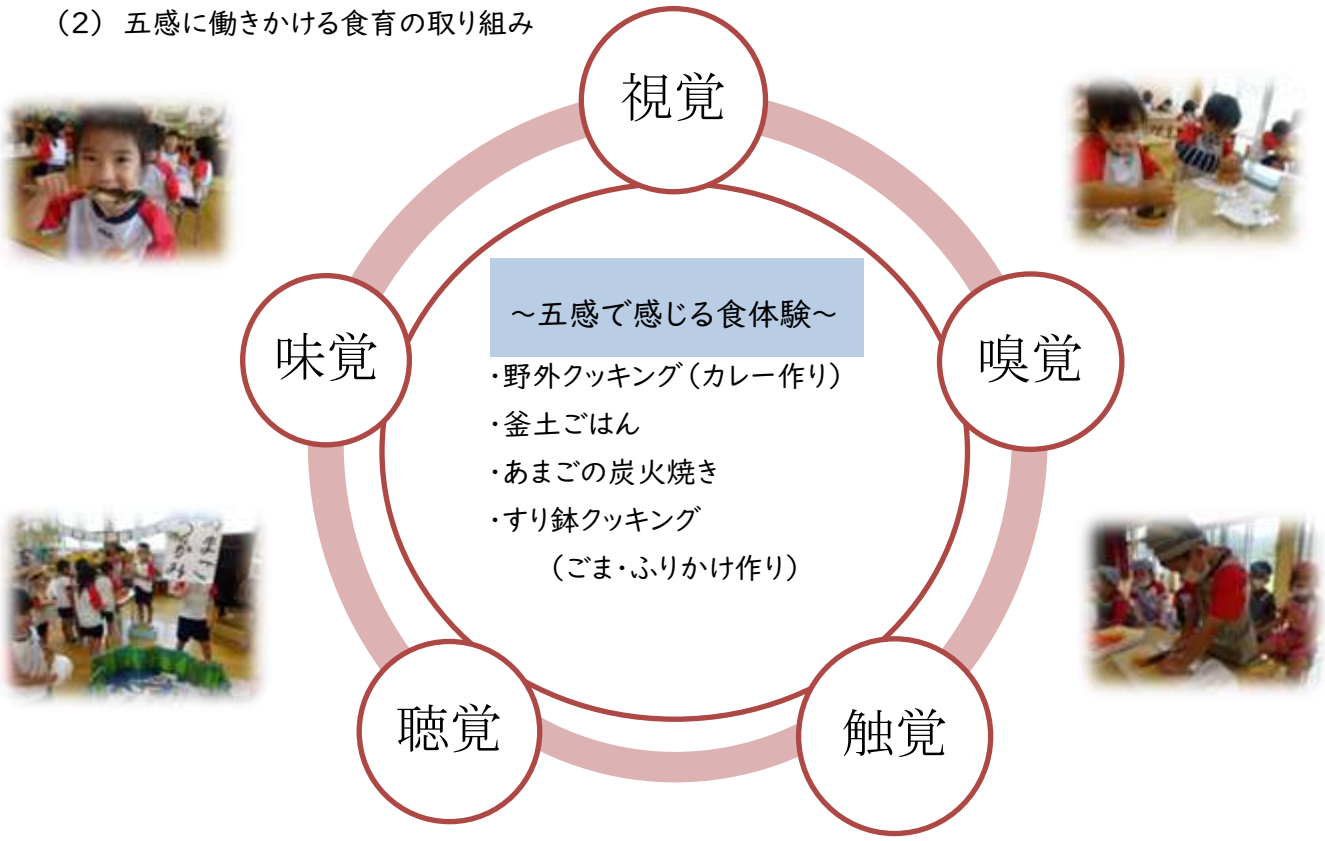
（2） 年齢に応じた食具を正しく使用できない園児が多く、食具の習熟に向けた支援が必要である。

6-2 今年度の主な取り組み

（1） 課題への取り組み

園児に向けて	1）よく噛んで食べる習慣が身に付くような声掛け 2）日々の給食について担任から調理室へのフィードバック 3）子どもたちの発達に合わせて、食具の種類の変更を行う 4）調理職員によるお箸の持ち方の講習（5 歳児に月 1 回程度） 5）お箸遊びで楽しくお箸の練習
保護者に向けて	1）1歳児の給食の試食 2）誤嚥防止食材について 3）遊びからの食具の進め方 4）クラスだより・食育だよりなどで危険な食材や食具についての情報発信
職員に向けて	1）給食検討会（月1回） 2）丹波市の栄養士による離乳食研修

（2） 五感に働きかける食育の取り組み



（3）給食関連の事故・ヒヤリハット

1）誤食事故（1件）が発生した。

小麦アレルギーの園児に提供したソーセージに小麦が微量添加されていることに気が付いたが、既に摂取した後だった。園児は無症状だった。

2）ヒヤリハット報告で給食で提供したアルミカップを口に入れていた園児がいたことが分かり、アルミカップに入れたままで園児に提供するのを中止した。

6-3 職員にむけて（上記以外）

（1）　現小学1年生の給食風景の参観の実施

6-4 保護者にむけて

対象	実施日	内容
5歳児保護者	6月7日	給食の試食 栄養バランスの歌の紹介 食材を栄養別に分け働きを知る 年齢別給食の展示（参観日）
	6月14日	
	6月21日	
0歳児保護者	11月10日	1歳児の給食の試食 ・誤嚥防止食材について ・遊びからの食具の進め方
	12月6日	
全園児	年4回	食育便りの発行
	随時	離乳食・アレルギー面談

6-5 地域との連携

（1）　未就園児へレシピの配布

（2）　農協・地域の方の畑をかりての栽培活動

6-6 次年度への課題

（1）　誤食事故を防止するため、マニュアルの再評価と改訂を行う必要がある。

（2）　給食当番活動の再開にむけて、感染症対策を考慮したマニュアルの作成が必要である。

（3）　第２園庭オープンに伴う屋外での調理や食事を安全に行うための体制を整えていく必要がある。

7 安全

年間目標：災害や事故から身を守る行動について学ぼう

7−1　昨年度の課題

交通安全：横断歩道の安全確認、横断旗の使用、手を挙げるなどの大切さを保護者・園児に発信し実践につなげる。

生活安全：ヒヤリハット収集、事例の共有化の継続により事故防止につなげる。

7-2 交通安全

（1） 交通安全教室の実施

（2） 手作り横断旗の使用

7-3 災害安全

（1）今年度実施した訓練

月	対象	訓練及び研修の内容
4	全園児・全職員	避難訓練（火災）
5	全園児・全職員	避難訓練 Ｊアラート 交通安全教室（主に３･4･5 歳児）
6	全園児・全職員 全職員	避難訓練（地震） 救命救急講習（各学年ごとに実施）
7	全園児・全職員	不審者対応訓練 引き渡し訓練（地震）
8	全園児・全職員	避難訓練（落雷）
9	全園児・全職員	**避難訓練（水害・緊急避難確保計画）**
10	全園児・全職員	避難訓練（火災・第 2 避難所へ避難・住民センター備蓄倉庫見学）
11	全園児・全職員	**避難訓練（バス事故を想定）**・（地震） **バス研修**
12	全園児・全職員	避難訓練（火災・消防署来園・煙道体験・放水訓練）
1	全園児・全職員	避難訓練（地震）
2	全園児・全職員	不審者対応訓練実施予定 避難訓練（火災）実施予定
3	全園児・全職員	避難訓練実施予定（地震）

7-4 生活安全

（1）ヒヤリハット報告の活用

（毎月、職員会議で事例を共有し事故を未然に防ぐ意識につなげる・マップによる掲示）

令和４年４月～11 月までのヒヤリハット報告の件数と項目

	0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	調理	計
危険行為	3	11	9	6	5	5		39
職員の確認不足	3	7	2	10	1	5	1	29
衝突	4	3	3	5	3	5		23
転倒・転落	4	7	4	2	2	4		23
設備の不備・故障	2	6	3	3		2		16
誤嚥・窒息	4	6	2					12
害虫・野鳥		1	2		2			5
危険物に手が届く			2		1			3
挟む		1						1
誤食（アレルギー）				1				1
計	20	42	27	27	14	21	1	152

（2）バス置き去り事故を防止するための研修の実施

7−5 次年度への課題

（1）最悪の事態を想定した訓練も実施し、実際の事故や災害に備える必要がある。

（2）バスの置き去り事故や職員による虐待に対する対策など、他園で起きている事例から学び、当園での予防対策を再検討する必要がある。

（3）横断歩道の横断の現状を把握し、横断旗の利用について検討する必要がある。